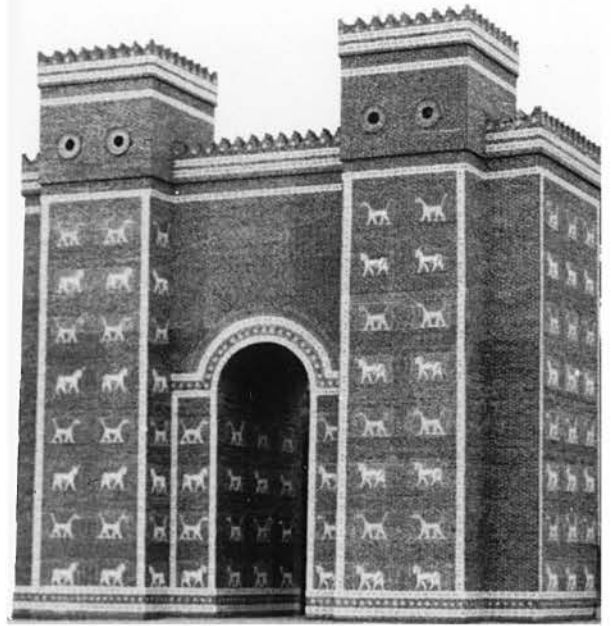


☆聖書考古学資料館 初夏の講演会☆

講演題 「ネブカドネザルとバビロン」

講演の内容：

聖書と古典古代の著作に記された伝説の都市バビロンは、不可思議な繁栄と滅びの象徴として人々の想像力をかきたててきた。紀元前7世紀末から前6世紀にかけて、新バビロニア王としてメソポタミアとシリアにまたがる帝国を確立し、バビロンを卓越した帝国首都に築き上げたネブカドネザル2世もかつては伝説的な人物だった。しかし、19世紀以来、考古学的調査によりバビロンの都市遺構が明らかにされ、発見された楔形文字文書がネブカドネザルとその時代について新情報をもたらした。こうした同時代の「証言」に照らして、ネブカドネザルとその時代の実像に迫る。



復元されたバビロンの「イシュタル門」

講師：山田 重郎 (やまだ しげお)

1959年生まれ 筑波大学大学院歴史・人類学研究科(西洋史専攻)単位取得退学
エルサレム・ヘブル大学大学院古代中近東研究科(アッシリア学)修了(Ph.D.)
専攻、アッシリア学(楔形文字文書研究) 現在、筑波大学人文社会系教授
主要著書・訳書

『歴史学の現在：古代オリエント』(共著，山川出版社，2000)

The Construction of Assyrian Empire: A Historical Study of the Inscriptions of Shalmaneser III (859-824 BC) Relating to His Campaigns to the West (Brill 2000).

The Royal Inscriptions of Tiglath-pileser III (744-727 BC) and Shalmaneser V (726-722 BC), Kings of Assyria (共著，Eisenbrauns 2011)

Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC - I: Scribal Education and Scribal Traditions (共編著，Harrassowitz 2016)



日時：2017年6月10日(土) 午後2時-4時

場所：お茶の水クリスチャンセンター(OCC) 416号室



参加 無料 (席上献金があります)

一般社団法人 聖書考古学資料館 (TMBA)

〒101-0062 千代田区神田駿河台2の1 OCCビル503号

Tel.03-3296-8889 <http://www.tmba-museum.jp>